

D2

No title available

Publication number: JP59101961 (U)

Publication date: 1984-07-09

Inventor(s):

Applicant(s):

Classification:

- International: A47L5/16; F04F5/44; A47L6/12; F04F5/00; (IPC1-7): A47L5/16; F04F5/44

- European:

Application number: JP19820200536U 19821227

Priority number(s): JP19820200536U 19821227

Also published as:

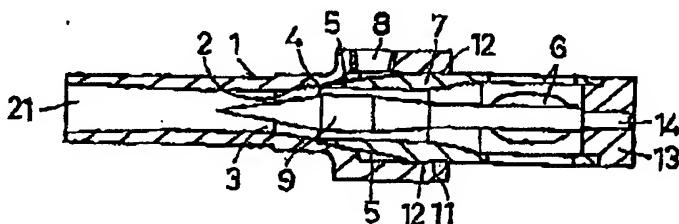
JP62041714 (Y2)

Abstract not available for JP 59101961 (U)

Data supplied from the espacenet database --- Worldwide

Title: Ejector of vacuum suction machine

Gas passage 3 having throttle portion 2 is provided in ejector body 1. Clearance 4 is formed between throttle portion 2 and tapered wall 5. Acceleration pipe 7 having gas suction inlet 6 is fixed in the ejector body 1. Inlet 8 for compressed air flow is provided at the front of clearance 4. An appropriate clearance 4 is formed by pushing acceleration pipe 7 so as to make tapered wall 5 contact with throttle portion 2.



公開実用 昭和59-101961

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭59-101961

⑬ Int. Cl.³
A 47 L 5/18
F 04 F 5/44

識別記号

府内整理番号
6420-3B
6573-3H

⑭ 公開 昭和59年(1984)7月9日

審査請求 有

(全 頁)

⑮ 真空吸引機のエジェクター

東京都北区上中里1丁目3番10号

⑯ 実 願 昭57-200536

⑰ 出願人 三立マテハン株式会社

⑯ 出願 昭57(1982)12月27日

東京都北区岸町1丁目5番4号

⑯ 考案者 橋本俊彦

⑰ 代理人 弁理士 井沢洵

明細書

1. 考案の名称 真空吸引機のエジェクター

2. 実用新案登録請求の範囲

圧縮空氣流を加速して機筐内を負圧とし、該負圧により固体、液体等を含む汚物を吸引する真空吸引機のエジェクター本体1の内面に絞り部2を有する氣体流路3を設け、絞り部2との間で空隙4を形成する斜壁5を一端外周に有し、他端に氣体吸引口6を有する加速筒7を本体1にその外周にて固定する一方、前記空隙4の直前の本体1に圧縮空氣流の導入口8を開口し、更に加速筒7内にエジェクターピン9を一体に設けたことを特徴とする真空吸引機のエジェクター。

3. 考案の詳細な説明

15 本考案は真空吸引機のエジェクターの改良に関するものである。

するものである。

本考案はエジェクター調節を容易にし常に最良の吸引性能が得られしかも製造が容易な真空吸引機のエジェクターの提供を目的としている。

上記の目的を達する本考案は圧縮空気流を加速して機筐内を負圧とし、該負圧により固体、液体等を含む汚物を吸引する真空吸引機のエジェクタ一本体1の内面に絞り部2を有する気体流路3を設け、絞り部2との間で空隙4を形成する斜壁5を一端外周に有し、他端に気体吸引口6を有する加速筒7を本体1にその外周にて固定する一方、前記空隙4の直前の本体1に圧縮空気流の導入口8を開口し、更に加速筒7内にエジェクターピン9を一体に設けたことを特徴とする真空吸引機のエジェクターである。図示の実施例において第15

1. 図、第2図及び第3図は合成樹脂製のエジェクタ
1. ーを示しており、本体1と加速筒7及びエジェク
1. ターピン9のすべてが樹脂製である。本体1の内
1. 面の円錐形絞り部2と所定の空隙4を介して加速
5. 筒7の円錐形斜壁5を対向させるため斜壁5に一
5. 対の空隙形成用突条10、10が設けてあり、このた
め組立ての際絞り部2の壁面に突条10、10が当接
するまで押込めば適正な空隙4を形成するこ
とができる。本体1と加速筒7とは、本体他端の開口
部11の内壁と加速筒7の外周を接着12して一体化
10. し、エジェクターピン9と加速筒7とは加速筒他
端に嵌合した固定部材13にピン基端の小径部14を
固着して一体化している。尚吸引口6は加速筒7
の周面に等間隔で複数開口してあるがこれに限定
されず、例えば固定部材13に開口しても良い。
15.

第4図及び第5図の実施例は構成部品1、7及び9を金属製としたもので、加速筒7の本体1への固着手段が前記の例と異なりねじ止めである点で相違する。即ち本体他端の開口部11の内壁に形成しためねじ15に、加速筒7の外周に形成したおねじ16を螺合することにより両者を一体化し、かつ空隙4の幅を決定する。従って基本的には、前記突条10のような空隙形成部材は必要ないが、設けることは自由である。尚16'はシール用Oリングを示す。エジェクターピン9はその基端小径部に形成したねじ14'を固定部材13'の小孔に通しナット17により固定してある。

以上の構成を有するエジェクターAは第6図及び第7図に例示したような真空吸引機Bに使用される。図中18は吸引部、19は容器部で両部は固定

1. 部材20により結合、分離自在である。前記エジェクターAは排気口部21のみを露出して吸引部18内に取付けてあり、その空気導入口8に圧縮空気の導入パイプ22が接続されている。23は吸引部18の下面に設けた隔板、24はその中央に孔を有する吸引部、25はフロート弁、26はそのバスケット、27はバスケット26を覆うフィルター、28は機筐容器部19内に一端開口が臨み他端には吸引ノズル29を有する可撓性吸引ホースを夫々示す。

従って國外の空気圧縮機を作動させ、コック30を開くと、圧縮空気流は斜壁5に衝き当って圧縮された上該斜壁5と絞り2との間の空隙4を通過する間に著しく加速され本体1内に負圧を生じて、気体吸引口6から機筐内の気体を吸引しつつ、直かに排気口部21より高速で排出する。かくして真

空吸引機 B 内ではノズル 29 からホース 28 を通り、
フィルター 27 を通過して吸引部 24 よりエジェクタ
ー A の排出口部 21 へ到る吸引径路が形成され、吸
引された液体が容器内に貯溜するとフロート弁 25
が吸引部 24 を閉塞することとなる。

前記において、機筐内に生じさせ得る負圧の程
度及び安定性は、特に空隙 4 により左右されるが、
本考案によれば斜壁 5 を一端外周に有する加速筒
7 をその外周で本体 1 に固定し、絞り 2 との間で
空隙 4 を形成しているので、加工し易く、その設
定、調節が容易に行なえると共に異物の侵入のお
それもなく、常に最良の吸引性能が發揮でき簡単
な構造で良好な精度が出せる効果がある。

4. 図面の簡単な説明

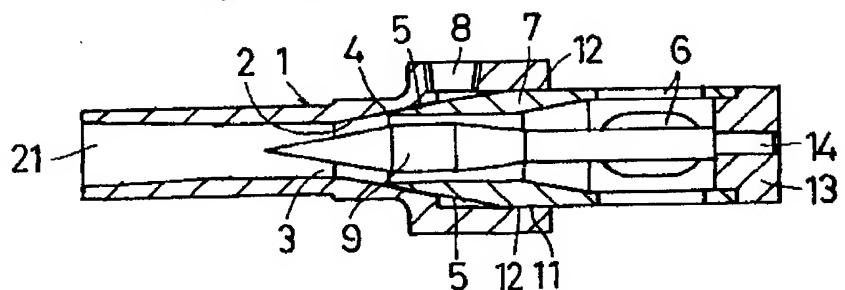
図は本考案の実施例を示すもので、第 1 図は工
15

1. ジェクターの縦断面図、第2図は加速筒の斜視図、
第3図は要部拡大断面図、第4図は他の実施例の
エジェクターの縦断面図、第5図はその要部拡大
断面図、第6図は前記エジェクターを組込んだ真
空吸引機の分解斜視図、第7図はその一部破断側
面図である。
1. エジェクター本体、2. 紋り部、3.
・ 気体流路、4. 空隙、5. 斜壁、6. 吸
引口、7. 加速筒、8. 導入口、9. エジ
エクターピン。
10. 10

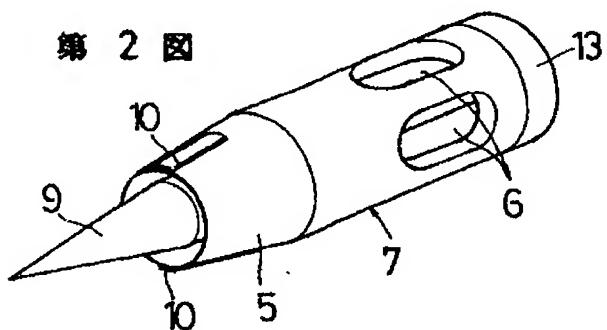
実用新案登録出願人 三立マテハン株式会社

代理人 弁理士 井 沢 淳

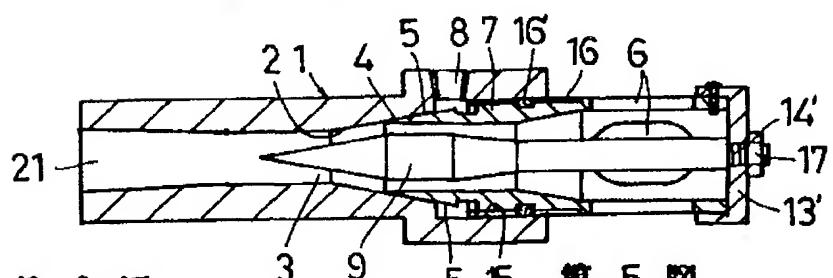
第 1 図



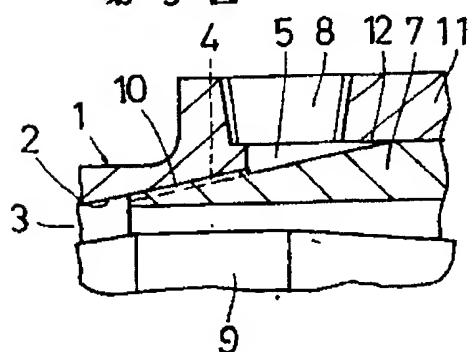
第 2 図



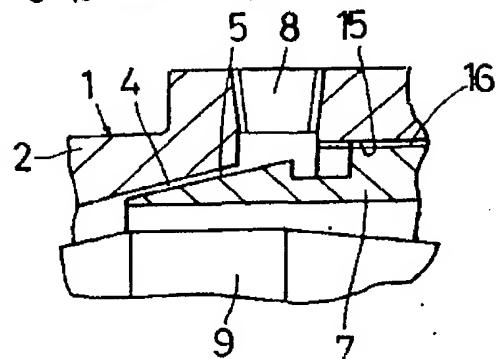
第 4 図



第 3 図



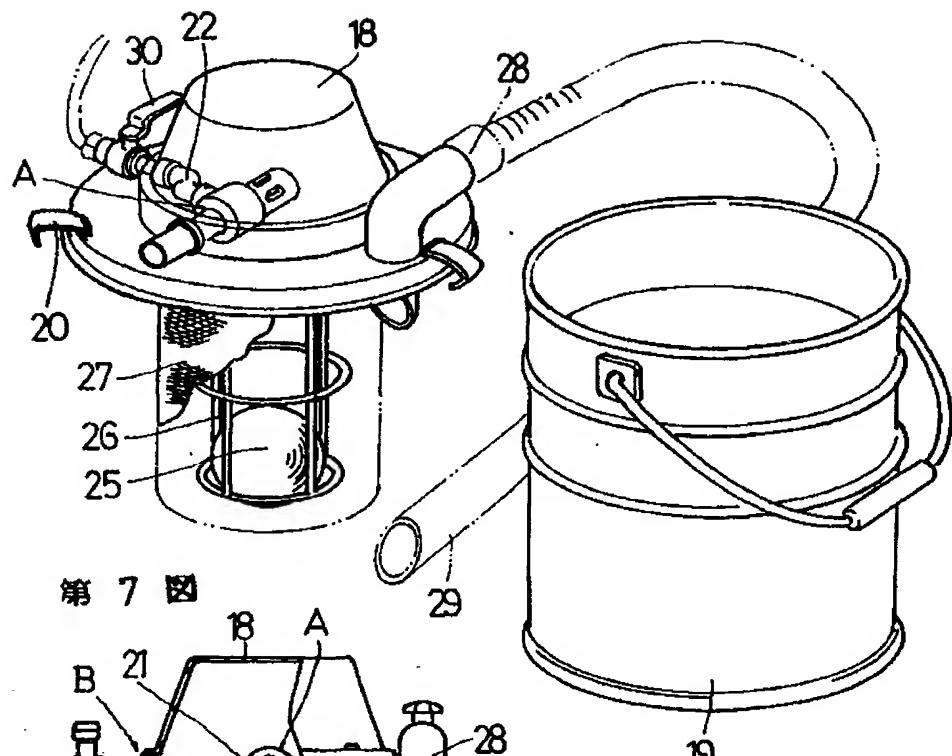
第 5 図



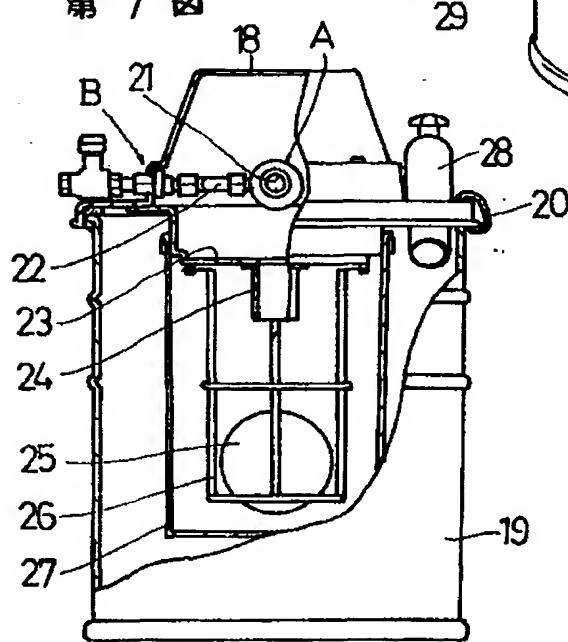
実開59-101961
549 三立マテハニ株式会社

代理人弁理士井沢

第 6 図



第 7 図



550

実用新案登録出願人 三立マテハン株式会社
代理人弁理士 井 沢

1961.1.10